

## 【若桜町】1人1台端末の利活用に係る計画

### 1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

学習指導要領及び中央審議会答申等において、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげることが求められている。そのために学校教育の基盤的なツールとしてICTは不可欠であるといわれている。

そこで、子どもたちの1人1台端末環境をいかし、授業や家庭学習においてICT機器を効果的に利活用することで個別最適な学びや他者と協働したより深い学びへとつなげることを推進する。また、情報活用能力を育成することにより、様々な課題に対応できる児童生徒の育成を目指す。

### 2. GIGA第1期の総括

本町としては、令和2年度末には国のGIGAスクール構想による追加導入により、1人1台端末環境を整備することができた。そして、各教室への電子黒板の配置や学習支援ソフト、タイピング練習ソフトなどの導入を進めてきた。また、環境面を整備するだけでなく、職員研修にも積極的に取り組んできた結果、教師の教材提示のためのICT活用はかなり浸透している。情報教育主任を中心として、教職員間で情報交換等を積極的に行い、児童生徒端末を児童生徒自身に使用させて教育活動を展開することができている。しかし、1人1台端末を活用した学習については、現在進行形であり、研修と実践を繰り返しているところである。教師自身の活用能力は高いが、児童生徒の学力向上に結び付く使い方であるかどうか、また、児童生徒が使うような指導がどれくらいできるかは、教師間でも差がある。今後も継続して児童生徒が適切な使用ができる指導、支援ができる環境を講じる必要がある。

通信ネットワーク基盤においては、ネットワークアセスメント等の実施により、通信の改善は図られている。今後は、定期的な簡易アセスメントを実施し、通信速度の数値の結果に不足が生じれば、アセスメントを実施し課題を特定する。

### 3. 1人1台端末の利活用方策

児童生徒の1人1台端末の利活用を促進するためには、教職員1人1人がICTを活用した教育に対しての意識を高め、自らその必要性を認識することが大切である。教員の情報活用能力向上に向けて学校のニーズや課題に応じた研修をするとともに、児童生徒が積極的に1人1台端末を活用した個別学習及び協働学習ができる環境づくりを推進する。また、教職員が作成した教材等をクラウド上で共有し、教職員間のICT利用率の差をなくすように努める。

個別最適・協働的な学びの充実を図るために、「自分の学びをふり返る」「自分の考えをまとめ、発表・表現する」「児童生徒同士や教員とやりとりする」などという授業場面でクラウドツールを活用することを推進していく。また、児童生徒個人毎の学習の理解度や進度等に応じた学習機会を保障するために、クラウドツールやAI型デジタルドリルを活用した積極的な端末利活用を図るとともに、学校と連動した家庭学習をすることを推進する。さらに、クラウドツールやAI型デジタルドリルを活用することは、長期病気療養児動生徒や不登校の児童生徒など、様々な困難を抱える児童生徒に対しても途切れのない学びを保障するための有効な支援となる。

これらの方策を実現していくためには、引き続き、端末、電子黒板、デジタルツール等の整備及び高速ネットワーク環境の安定稼働の維持をしていくことが重要である。